

学校に来た用事を思い出し深友会事務所の中に入ると閉め切った部屋の中はまるでサウナのようで一気に汗が吹き出てきました。慌てて窓を開け広げて風を入れると校庭の樹木の間を通り過ぎてきた風は涼しくホッとしました。学校の西北に位置するこの一戸建ての事務所は、前北村校長先生、萩原

今年は殊外暑い夏になりましたが、夏休みも後半を迎えた頃母校を訪れました。うだるような暑さでカラカラに乾いたグラウンドには沢山の生徒たちが部活に汗を流していました。さすがに中学生は若さがあるなあーと元気に動き回る光景を茫然と眺めていると、自分が中学生だった頃部活でグラウンドを走り回ったことが思い出され、ほんの少し若さが蘇ってきたように感じました。

さて、深友会の活動について若干報告させていただきますと、まず今年度より、年間事業計画を作成し計画的に事業を推進していくようにいたしました。そして、継続的、恒例的な事業については積み重ねていく中で更に充実するように心がけ、スポッ的な事業については適時性や必要性を考慮して実施していきたいと考えています。

また、在校生の表彰に関しては、昨年INAS・FMHアジア南太平洋卓球選手権大会でシングルス二位、ダブルス三位と大活躍された当時二年生の伊藤慎紀さんを表彰いたしました。もとより、深友会は深中を母校とする卒業生が互いに旧交を温め親睦を深められるように支援する会であり、同時に母校や生徒を支持し応援していくことも会の役割と考えています。こうした会の使命を果たすために、よい事業が遂行出来るよう努力し、会の存在意義をより高めていきたいと考えていますので今後共多くの方々のご支援ご協力をお願い申し上げます。

期待される深友会をめざして

深友会（深沢中学校同窓会）会長・嶋村勝美

深沢中学校
同窓会報

深友会だより

第2号

鎌倉市立
深沢中学校
深友会事務局

〒247-0063
鎌倉市梶原1-14-1
☎0467-44-1222



中学校からの短信

御成中に移られた北村校長先生に代わって、腰越中から手塚雄一郎先生が新校長として四月に赴任されました。また異動になった小日山先生に代わり、滝口朗先生が同窓会担当になられます。新一年生は昭和四十二年以来の四学級に減り、全校の生徒数は五八〇名、学級数も十五になり、最も生徒の多かった昭和五十七年当時の半数以下に減少しました。

しかし部活動は文化部、運動部ともに活発です。五月に行われた全日本知的障害者卓球選手権大会で、三年生の伊藤慎紀さんが優勝しました。伊藤さんは十月にリスボンで行われる世界大会に出場の予定です。



「山・田んぼ・川」

—里山のあつた深沢

元深沢中学校教頭 安藤 鉦一

先日、バスの中で偶然乗り合わせた深沢中学校の青年教師から「聞いて下さい。今年の一年生はとうとう四クラスになってしまいました。ずいぶん昔の生徒数にもどっちゃいました」という言葉を聞かされました。四クラスと言えは私が新任として深中に来た約四十年前の昭和三十五年度の一年生がそうでした。その時の二・三年生は二クラスで、ずっと各学年二クラスが続いていたのが、第一次ベビーブームの影響で初めて四クラスになったと、当

時話題になったくらいでした。最近深沢は田んぼだった所は住宅地に、小川が流れていた所は道路にと変わってしまいました。そして少子化の傾向で小・中学生の姿が以前ほど見られなくなったのはさびしいかぎりです。子供たちがへびやカエルを相手にしながら帰って行った山道はけずられて、そのあとには大きなマンションが建っています。

また今は高齢化社会と言われているが、鎌倉でも元氣なお年寄りのグループが「古都巡り」するのをよく見かけます。「鎌倉山—深沢—大仏」を巡るハイキングコースもあるようですが深沢地区も遠くから大勢のハイカーを迎える時代になりました。林と段々畑が

形作る「里山」は貴重な遺産と言えましょう。その「里山」の雰囲気味わいながら歩を進めると気分は爽快になります。深沢は自然の楽園とも言えるほど豊かです。

最近になって知ったことですが昭和四十七年から昭和六十年まで約十三年間、山崎方代（やまざきほうだい）という歌人の方が手広に「方代草庵」をむすんで住まれ短歌を作っていたとのことです。

「ゆく秋の鎌倉山の岩かげに釣鐘人参花下げておる」 山崎方代

年月は移り、まわりの景色もだいぶ変わってまいりましたが、鎌倉山を飛び越えて深沢の大地へ渡ってくる潮風は少しも変わっておりません。昔ながらのさわやかな響きを奏でているように思われてなりません。

深友会からの

お知らせとお願い

「深友会だより」第二号をお届けします。昨年の創刊号で会の財政状況をお知らせしたところ、多くの方々から賛助金と暖かいお便りを頂き、誠に有り難うございました。役員一同、大変意を強くし、続けていく自信を得ました。厚く御礼申し上げます。

しかしながら今後、発送費用の増大等も考えられ、依然厳しい状況には変わりありません。引き続き皆様のご協力をお願い申し上げます。

なおこの会報がお手元に届かない方で送付をご希望の方や、住所等変更の方は事務局までお知らせ下さい。同期会やクラス会などの情報もお待ちしております。また新たに同期生の名簿を作製した時は、一部お送り頂ければ幸いです。事務局への通信、賛助金お振り込みの際は、整理の都合上、ご面倒ですが卒業年度と旧姓をご明記下さるようお願い申し上げます。

心の風景

深沢中学校長 手塚雄一郎

四月よりお世話になっていきます。深友会の皆様にはお付き合いのほどよろしくお願いいたします。

私は現在、茅ヶ崎に在住しています。梶原とは背中合わせのような位置にある山ノ内で生まれ育ちましたので、深沢中に来て遠い昔のことが思い出されます。

子供の頃、台峰や葛原ヶ岡のあたりをわが庭のようにして歩き回り、正月には竹馬の竹を切り、春にはゼンマイやワラビを採り、秋には栗、あけび、自然薯などの恵みをいただき、あるときは木の上にアジトを作ったりと、まるで生活科のような学習？をしていたものです。ですから、突如として出現した梶原の野村総研のビルと突然寸断された葛原ヶ岡に通ずる尾根道にはずいぶんとびっくりし、寂しい思いをしたこともありました。しかし、幼い頃遊んだ北鎌倉の山の起伏や木々が見せる四季折々の彩り、池や田んぼや畦道のたたずまいは、今の私の原風景のひとつとなっています。

校長室にある深友会の力作、記念誌「深中の五十年」の中にも懐かしい風景がたくさん載っていました。深友会の皆様には、ちよつと古くは深沢小学校

と同居していた頃の木造校舎、あるいは途中で現在地へ移転した頃の真新しい白亜の校舎などの風景がよみがえり、同時に行事やクラブ活動など様々な人が去来するセピア色の場面が浮かんでくるのではないのでしょうか。そして、現在の風景との大きな差の中で、記憶としての風景が人生を重ねていくとそれが心の風景となっていくことを実感している方も多いのではないかと思います。

現在、深沢中は十五学級の規模となり、最大時の半分ぐらいになってしまいい、今後少し減る傾向にあります。しかし、少なくともたはいえ生徒は実のびのびと活動しており、授業中とはもとより休み時間や放課後での声、音、動きは学校としての立体感のある素晴らしい風景を形成してくれています。きつと、在校生も卒業後は深友会の先輩と同じように母校に自信と誇りを持った会員となるはずです。そして



カット・手塚校長先生

いつの日か、この活力に満ちた立体的な風景が彼らの「心の風景」になることでしょう。

また、私にとってもこの風景が教職生活の中のいくつかのページを素敵に飾ってくれるものと思っています。

同期会だより

★第十七回生(昭和四十年卒業)

昨年二月七日(土)、卒業以来初めて旧三年一組のクラス会を大船で開きました。担任だった音堅先生のご出席を仰ぎ、集まった同級生は二十名。思い出話しに、カラオケに楽しい時を過ごし



第17回生3年1組クラス会

ました。三次会まで行っても三十三年間に積もった話は尽きず、次回の開催がすぐまとなり、十一月十四日に第二回目を深沢で開きました。この日も二十名が出席し、四次会まで行く盛り上がりでした。

★第十六回生(昭和三十九年卒業)

昨年七月三十五年ぶりに開いた初の同期会で意気投合した有志十名で、六月二十日(日)、級友の親族が営む片瀬の寿司屋「福本」で同期会。担任の山崎先生もご出席。

★第二十一回生(昭和四十五年卒業)

この学年は毎年、小学校と合同の同期会を開いています。今年も六月五日(土)、藤沢市民会館で永橋先生、太田(浩)先生等を招いて開催しました。



第16回生同期会

深中で得た私の「財産」

第三十二回卒業生

神谷・タンナー・末夏

私は深中卒業後、東京の音楽高校・大学へ進み、後ヨーロッパに渡ってドイツ・フランスで勉強を続け、スイスのオーケストラに就職。当地で知り会ったスイス人画家と結婚し、出産を機にフリーの演奏家となり、現在は地元の音楽学校でヴァイオリン・ヴィオラを教えながらコンサート活動をしています。

スイスは自然も人の心も美しく、秩序の良さなど日本と似たところも多く、住み良い国といつてよいと思いますが、私の心にある風景といえは、やはり生まれ育った鎌倉です。

皆様のご努力の賜であります五十周年記念誌の「深沢の今と昔」を拝見しました。また年に一、二度里帰りいたします折にも、懐かしい場所の変わり様には驚きもいたしますが、故郷の美しさは、沢山の想い出と共にいつも心に描くことができます。

中一の担任は橋本晴人先生でした。これが私にとってどんなに素晴らしいことであったことか！西鎌倉小学校から進んだ少数派の私でしたが、明るく爽やかで、暖かな思いやりにあふれた行動的な先生のもので、クラスはすぐさままとまりを持ち、喜び楽しみを分



スイス・ベルナーオーバーラントにて

かちあい、また秩序や礼儀、そして人の心を重んじる先生でしたので、それを乱した時のお叱りも厳しく、皆が一緒に「何故そうだった状況になつてしまったのか？」ということを考え、反

省し、誰一人「私は関係ないもんね」というような知らぬふりをする事がない、本当によいクラスでした。これは今の自分主義の世の波に生きていく上でとても大切な教えたことだと思います。今でもこのクラスの友達何人かと、そして先生とは交流がありますし、その時に得た精神は私の財産です。

私が在籍した頃の深中は各学年十クラスずつ。沢山の個性豊かな先生と生徒であふれ、毎日がハブニングとエピソードに満ち、楽しくエキサイティングな学校生活でした。

また部活が盛んで選択とは名ばかりのほぼ必修状態でしたが、音楽の道を志していた私に両立は不可能と分かってしまったのでどこにも所属せず、またどうしても欠かせないこのため

に学校をお休み・遅刻・早退ということもあり、時にそのことで一部から風当たりを受けましたが、ご自身も合唱をなさり、音楽を愛し、ご理解のあった橋本先生がフォローして下さい、音楽の鴻江先生がお出しになる夏休みの宿題「歌または楽器の演奏による発表」が、私にとっては皆の前で普段自分がやっていることを表現できるチャンスだったわけで、おかげで級友達から理解や協力、そして自分でも人前で演奏することの喜びを得ることができ、それが今日の私を作っているのも確かです。そして、その後の私の人生は音楽が中心。ある意味狭い世界に生きていくのですが、私には深中で色々な人々に出会い、心身、頭フルに使って多くの経験をし、その中でもまれながらたくましくやっていったことが、自分への自信にもなっているような気がします。

私にとって懐かし、愛しく、思い出深い深中に、いつの日か我が息子を短期日本留学させて、同じような体験、思い出を語り合える日がきたらよいなと、ひそかに願っています。

(スイス・フラウエンフェルト在住)

教職員と深友会の

懇親会開催

昨年ひき続いて教職員と深友会の懇親会が七月三日(土)午後三時から深沢中学校で開催されました。異動になった前北村校長先生や小日山先生、新任の手塚校長先生はじめ諸先生方の歓送迎会も兼ねて行われたもので、前半はソフトボール大会、後半はバーベキュー・パーティーで親睦を深めました。



バーベキュー・パーティー